

現行家族制度

5.16 大切さを訴える

22、 松山で講演会

選択的夫婦別姓制度を含む民法改正に反対する松山市の市民団体「健全な男女共同参画社会をめざす会」（青井美智子代表）の講演会が16日、同市堀之内であり、米国メリーランド大学講師のエドワーズ博士（山口県）が「先祖や子孫とのつながりを重視する日本の家族制度は世界に誇れる」と現行制度の大

切さなどを訴えた。

会員ら約80人が聴講。エドワーズさんは、男女共同参画社会について「国のポジティブ

・アクション（積極的改善措置）による女性登用は機会ではなく結果の平等を目指しており、男女間の敵対意識



を大きくする」などと指摘。さらに「（保育所待機者ゼロなどで）育児の外注化が進み、家庭や専業主婦という存在がつぶされようとしている」と持論を展開した。

夫婦別姓法案に反対し、家族のつながりの重要性を強調するエドワーズ講師16日、

松山市堀之内

また結婚や家族制度の重要性を強調。「女性の社会参加は賛成だが、子育て中の女性を労働力として社会に追いやるのではなく、子育て後にいつでも復帰できる社会にするべきだ」などと述べた。

（坂本真理子）